

地方創生拠点整備交付金 申請事業一覧表

資料4

NO	事業名	事業概要
①	民俗資料館「夜明け前」のリノベーション事業	<p>【現状・問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、古民家を民俗資料館「夜明け前」として利用しているが、利用者が少ない。 ・また、同施設は天平の丘公園内にあるが、公園内には訪れた方の休憩スペースや飲食などの憩いの場が少ない。 <p>【そこで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗資料館「夜明け前」改修工事を実施し、古民家カフェ及び多目的スペースとしてリノベーションし、飲食物持ち込み可能なフリースペースを持つ古民家カフェとして再整備する。 ・また、夜明け前に隣接する展示室を改修してテイクアウト方式のデリカテッセン形式の厨房とする。 ・観光客の飲食・休息所となることはもちろん、カフェとしてだけでなく市民展示や演奏会など多目的な利用が出来るように改修し、通年的な観光客及び市民の憩いの場とする。 <p>【そうすることで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夜明け前」そのものが史跡公園内に存在することでフィールドミュージアムの象徴的な役割としての価値が高まる。 ・ここを拠点に古民家カフェの運営母体として想定するまちづくり市民団体が天平の丘公園地域を観光資源として有効活用し、市民団体等と協働運営していくことで地域の活性化を促すとともに、市内にひとの流れを生み出し、市のプロモーションに大きく貢献していく事業に発展させる。 ・毎年約20万人が訪れる天平の花まつりの期間以外でも、年間250万人以上が利用する道の駅しもつけ等との周遊性をもたせる仕掛けづくりを進め、歴史ボランティア等とも連携し、市民協働で観光プロモーションを展開していく。
②	下野薬師寺歴史館増築事業	<p>【現状・問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学者休憩ホールとして供用開始されたスペースが、現在、ボランティア数の増員に伴いボランティア活動拠点となっている。そのため、現在でも年間3000人を超える小学生等の体験学習で逗留する場所が不足する上に、作成を進めているVRコンテンツ等の利活用スペースの確保が難しい。 ・VRコンテンツを有効に活かすために、映像を鑑賞したりガイドを受けたりする利活用スペースを確保する必要がある。 ・増加が見込まれる来館者のために、例えば雨天時に昼食をとれるスペースの確保が必要である。 ・運営するボランティア団体のために、常時利用することができ、歴史ガイドの休息やガイダンスの学習、イベントの準備などができる場所が不可欠である。 ・このため、薬師寺歴史館を増築し、それぞれが機能的なゾーニングのもとに活動できるスペースが必要である。 <p>【そこで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史館の北側にボランティア活動スペースを増築し、ボランティア活動拠点を確保するとともに、来館者のためのVRコンテンツ活用スペースを設置する。 ・VRコンテンツを活用し、道の駅しもつけに立ち寄る観光客を、収益とシティプロモーションにつなげるため、大型バスで来訪する団体客の受け入れが可能な体制を整備する。 <p>【そうすることで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらの文化財を積極的に活用し、他の取組と組み合わせることで大きなシティプロモーションの取組にブラッシュアップし、本市に新たな人の流れを呼び込み移住・定住の促進を図るとともに、市民が誇りを持てるようなふるさと愛の醸成を図っていく。
③	グリムの館「お菓子の家」増築事業	<p>【現状・問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリムフェスティバルをはじめとしたドイツにちなんだイベントも数多く実施され、近年は市民の文化活動の活発化によりホールの利用数は年々増加傾向にあり、施設稼働率も安定した状況にある。また市民ボランティア団体が毎年冬季に「グリムの森イルミネーション」を開催し、期間中は多くの人出でにぎわっている。さらに昨今、コスプレの人气が高まり、同人団体のイベント利用が25回、9,195人を動員し、これはあるコスプレ専門サイトによれば全国3,198か所ある会場の中で第41位にランキングされるなど、県内有数の人気スポットになっている。 ・しかし、その反面、控室等の部屋数が少なく狭隘なため、男女の着替えもままならなかったり、大人数の場合には倉庫を利用したり屋外にテントを立てて対応している現状である。このため年々増加する利用者から改善が強く求められていた。 ・さらに、増加する集客を取り込み、稼ぐ力に結び付けていくためには、館内のレストランや物販コーナー、各種イベント時の売り上げなどにつなげていくことが必要であるが、利用者のニーズに十分応えられているとはいえない現状である。 <p>【そこで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・控室等の十分なスペースを確保するために、現在1階受付スペースにある物販コーナーを機能拡大しグリムの館の南側の林へ「お菓子の家」として移転増築する。 ・物販コーナー跡に2階にある図書コーナーを移動する。 ・図書コーナー跡を控室・更衣室兼多目的室に改装する。 ・移転増築する建物は「お菓子の家」を模したお土産物屋や簡単なテイクアウトフードの販売施設とし、バックヤードでは簡単なクッキーなどが加工できる機能を持たせる。 <p>【そうすることで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリムの森イルミネーションをはじめ、増加傾向にある来館者を稼ぐ力に変換するため、販売施設を広場に面したスペースに配置することで、新たな収益向上や雇用機会の確保につなげる。 ・グリムの館はすでに多くのボランティアに支えられており、これらの力との相乗効果により、グリムの森・グリム童話という特色を活用したプロモーション活動をさらに高めていく。 ・行政がハード部門の環境整備を先行して行うことにより、市民協働で実施しているレストランやイルミネーションをはじめとした各種イベントのさらなる活性化に向けた起爆剤とし、雇用や収益性の向上や指定管理者の安定運営につなげていく。